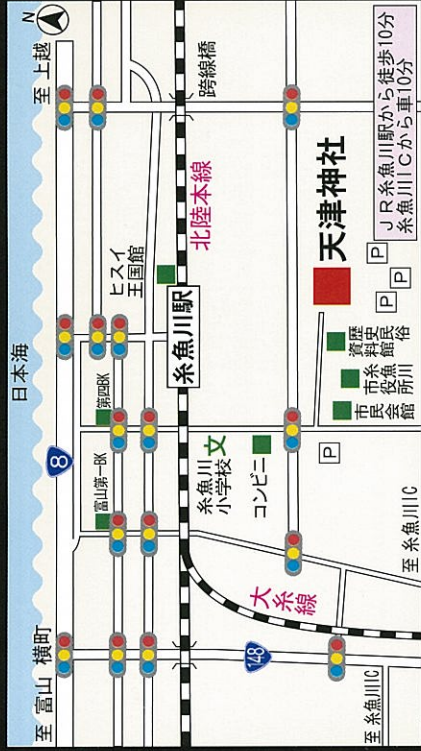


## 会場のご案内

■ 天津神社の春季大祭 (4月10日・11日 両日13:00頃～)



場所 糸魚川市一の宮 1-3-34  
 問合せ先 天津神社舞臺会 (TEL) 025-552-0036

■ 根知山寺の延年 (8月31日20:30頃～、9月1日13:00頃～)



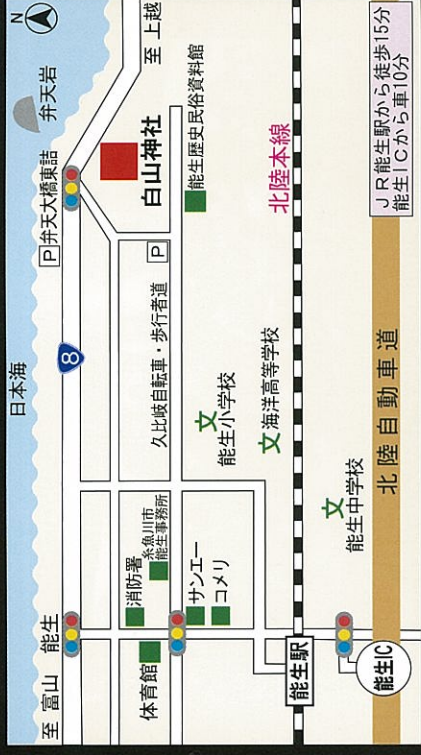
場所 糸魚川市大字山寺 853 (日吉神社)  
 問合せ先 糸魚川市教育委員会文化振興課  
 (TEL) 025-552-1511

■ 百川小正月塞の神行事 (1月14日 17:00頃～、1月15日 9:00頃～、お松焼)



場所 糸魚川市大字百川地区  
 問合せ先 糸魚川市教育委員会文化振興課  
 (TEL) 025-552-1511

■ 白山神社の春季大祭 (4月24日 13:00頃～)



場所 糸魚川市大字能生 7239  
 問合せ先 白山神社文化財保存会 (TEL) 025-566-3465

■ 青海の竹のからかい (1月15日 12:30頃～)



場所 糸魚川市大字青海 (青海駅前本通り)  
 問合せ先 糸魚川市教育委員会文化振興課  
 (TEL) 025-552-1511

■ 藤崎観音堂裸踊上げ (1月17日 19:30頃～)



場所 糸魚川市大字藤崎 992 磯部ふるさと会館向  
 問合せ先 糸魚川市教育委員会文化振興課  
 (TEL) 025-552-1511

## 開催日時のご案内

※各時間はおよその開始時刻です。  
 ※百川小正月塞の神行事の日程は年により変更になります。

4月	8月	9月	1月
10日 13:00 天津神社の舞臺	31日 20:30 根知山寺の延年 (宵宮)	8日 13:00 根知山寺の舞臺	14日 17:00 百川小正月塞の神行事 (鳥追い・塞の神)
11日 13:00 天津神社の舞臺	1日 13:00 根知山寺の延年 (本祭)	1日 13:00 根知山寺の舞臺	15日 9:00 百川小正月塞の神行事 (お松焼)
24日 13:00 白山神社の舞臺			15日 12:30 青海の竹のからかい
			17日 19:30 藤崎観音堂裸踊上げ

能登 白山神社の舞臺 (国指定)



根知山寺の延年 (国指定)

青海の竹のからかい (国指定)



# 糸魚川市能事 年中継 行能事



糸魚川 天津神社の舞臺 (国指定)

糸魚川市教育委員会 文化振興課  
 新潟県糸魚川市一の宮 1-2-5 (TEL) 025-552-1511  
 (URL) <http://www.city.itoigawa.lg.jp>



# 糸魚川市の伝統芸能・年中行事

糸魚川市には、数多くの芸能や年中行事が今日まで大切に受け継がれ、そのうち8件は文化財に指定されています。

なかでも稚児による舞を中核とする「糸魚川・能生の舞楽」(天津神社と白山神社の舞楽)、「根知山寺の延年」といった芸能は大阪・京都からの影響を受け、中世の面影を残します。また、青竹を引き合せて豊漁・豊作を占う「青海の竹のからかい」や、締め入り姿の男衆による厄払い「藤崎観音堂裸胴上げ」といった、他にあまり例のない勇壮な小正月行事も伝承されています。

## 国指定 糸魚川・能生の舞楽



天津神社(鶏冠)

### 【能生 白山神社の舞楽】

(昭和55年1月28日指定)

4月24日に能生の白山神社境内の水舞台で演じられるこの舞楽の歴史は古く、長享2年(1488)、京都相国寺の僧万里集力が能生に滞在した際、日記『梅花無尽蔵』に「祭祀之童舞有り」と記述していることから、500年以上さかのぼることは確実です。

行列の先払いとして境内で獅子舞が舞われ、その後「振舞」「候礼」「童羅利」「地久」「能抜頭」「泰平楽」「納曾利」「弓法楽」「児抜頭」「輪歌」「陵王」の11曲が、陽が落ちるまで演じられます。

## 国指定 根知山寺の延年

(昭和55年1月28日指定)

「根知山寺の延年」は、山寺集落の日吉神社に奉納される神仏習合を色濃く残す県内唯一の延年芸能で、地元では「山寺のおてこ舞」として親しまれています。「延年」とは、芸能によって寿命を延ばそうと、寺院で法会(ほろえ)の余興として演じられた歌や舞のことです。

「おてこ舞」の歌詞などから、京都の流れを汲み、500年前には伝わっていたようです。

8月31日の宵宮には9曲の舞楽が奉納され、翌9月1日には、「おてこ舞」「くるいの舞」「鏡の舞」「花の舞」「弓の舞」「鉦の舞」「種蒔き」「しめの舞」「万才」「獅子舞」の10曲が演じられます。

## 国指定 青海の竹のからかい



(昭和62年12月28日指定)

1月15日に、青海地区の東町と西町で行われるこの小正月行事は、江戸時代から続くとされています。

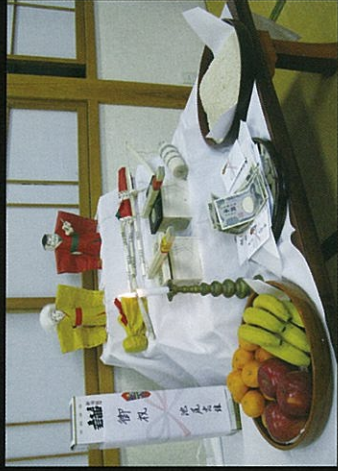
祭当日は、東町と西町に分かれ、隈取をした若い衆などが、2本の竹を重ねたまま抱え込んで引き合い、その年の豊漁・豊作を占います。3度の竹の引き合いの後、引き合った竹などを浜で焼く塞の神焼きを行い、年中の厄病を払い、全国的にもたいへん珍しい行事です。

## 市指定 百川小正月塞の神行事

(平成3年3月28日指定)

能生地区の百川集落に伝わる小正月行事は、書鳥(かひやう)を追う「鳥追い」と、除災招福・家内安全を願う「塞の神」が一連となっています。親方と呼ばれる中学生の指図で行われ、古くは集落を東西に2分して行われていました。

1月14日夕方に集会所で祭壇を設けて塞の神を迎え、夜には鳥追い行事が行われます。その後塞の神一式を柳行李に入れ、集落をまわり、書き初めや賽銭を集めます。翌15日の朝、浜辺へ集まり、それら集めたものと立てた2本の竹に火を付け、燃えた竹が倒れた方向で豊漁・豊作を占います。



## 市指定 藤崎観音堂裸胴上げ

(平成17年2月28日指定)

1月17日に行われる、能生地区藤崎集落の観音堂(かみく)に伝わる奇祭です。江戸時代から伝わりとされています。

裸体に締め込み姿の若者衆は、参詣者の中から厄年(やくとし)の人を「メッケーター(見つけた)」とつかまえ、大の字に持ち上げ「サッシャゲ(差し上げ)」と叫びながら堂内を練り歩き、頃合を見て3回放り上げます。このような胴上げを繰り返して、参詣者の厄を落とし、無病息災を祈ります。

昔ながらの風習と信仰を融合させた、勇壮で独特な行事です。



## 市指定 川詰神楽と踊り

(平成3年3月28日指定)

能生谷の川詰集落に伝わるこの神楽は、ここで足を休めた傀儡(くわい)子や木地節(きじせつ)によって、200年前には伝えられていたとされ、祝い事などに催されます。

「悪魔払い」「まり獅子」「面神楽」などの神楽、「新保広大寺」「おけさ」「追分」「伊勢音頭」「縦踊り」などの踊り、「巡礼おつる」などの木偶芝居の3部で構成されていますが、木偶芝居は絶えてしまいました。



## 市指定 新町翁舞式

(平成9年7月22日指定)

「翁は能にして能にあらざ」といわれ、一種の神事としてきわめて厳粛かつ大切な儀式とされています。

早川谷の新町集落に伝わる翁舞式は「千歳」「翁」「三番叟」の3曲で構成され、江戸時代中期頃より面・装束・管鼓などと共に伝えられてきたとされています。

国家や新町集落内の慶祝時に催されています。



## 市指定 田伏まだら

(平成8年3月28日指定)

「まだら」は日本海側の集落に点在する民謡で、新潟県では田伏地区だけに漁師の祝儀唄として伝承されています。

という短い歌詞の母音部分を長く引いて唄うところに特徴があり、同様のまだらは能登の七尾市にも伝わり、この地方における漁村の習俗や海上交通の歴史を知る上でも貴重といえます。

# 冬

# 春

# 秋

獅子舞